

ガス・石油暖房事故



石油ストーブの近くに置いた可燃物に引火した火災の再現実験(NIE提供)

ガス・石油暖房機器をめぐる事故が2014年度までの約5年間で547件あり、死者は64人になることが25日、製品評価

誤使用や不注意火災多発

5年間、64人死亡

技術基盤機構(NIE)の集計で分かった。誤った使い方や不注意による事故が目立ち、うち7割超の413件が火災だった。これらの機器を使う機会が増える冬本番を迎え、NIEは注意を呼び掛けた。

製品別の事故数は石油ストーブ301件、石油温風暖房機162件、ガスストーブ38件、ガス温風暖房機36件など。

香川県では14年2月、火がつ

いたままの石油ストーブに給油し、タンクのふたの閉め方が緩かったため、漏れた灯油に引火したとみられる火災があり、70代女性が死亡。石油ストーブにたまったほこりが吸気口をふさいで炎が逆流、引火したり、就寝中にストーブの上に干していた洗濯物が落ちたりしたのが原因と推定される火災もあった。

NIEは注意点として①給油時は必ず消火する②タンクのふたが閉まっているか、機器は正しく装着されているか確かめるなどを挙げた。

2015年12月26日 朝刊

①ガス・石油暖房機器をめぐる事故は5年間で何件起きているでしょうか。

[]

②事故が起きる主な原因は何でしょうか。

[]

③事故を防ぐために注意することを書きましょう。

[]

年 組 名前

(小学校中学年以上・中学校・高校 総合・特別活動、保護者・教員)